

# 表象としての「町並み」

吉原卓男

日本の都市景観は、第二次世界大戦時の空襲による被災と戦災復興、経済の高度成長とそれに続くバブル経済に伴う都市改造等によって、近代という一元的な価値観と様式による個性のない均質な都市空間が多くを占め、魅力的な都市が希有であるとの認識のもと、ここ数年来、環境デザインの地域性・独自性に関わるフィールドワークを進めてきた。今回の報告はその一部である。均質な都市空間が多くを占めるなか、近代化の洗礼を免れたものもある。なかには僅かではあるが、独自性を失うことなく今にその姿を保ち続けている、所謂伝統的な都市及び集落の町並みや民家である。

調査は、そのような歴史的・時間的継続性をもって形成された伝統的町並みや伝統的民家を対象とした。なかには、行政（文化庁）による重要伝統的建造物群保存地区及び国指定重要文化財民家の指定物件と重複するものも多数あった。そして、ほとんどの指定物件は、指導によって一律的な修復がなされている。しかし、それらを含めて、多くの家並みや建造物に接することにより、人々が長年住み暮らし、育んできた「町家・民家」とその背景に広がる町並みと自然がつくる景観には、常に固有のコンテクストがあり、その共同体の意思、それにかかわる固有の美意識の存在を知ることができた。それらは、つくる技術とともに繰り返し継続し受け継がれその形態と特徴を今に伝えている。

## 調査の概要

調査は集落及び町並みを、部分的・計量的な視点に拘るのではなく、それを構成する諸要素（道路・建築・敷地・及び周辺の空間、更に自然環境）を視覚的

に捉え全体的な相互関係を把握しながらその形態と特徴の収集に進めた。対象とする集落及び町並みの個数は膨大な数量になるが、私自身が現地に於いて踏査すること、そして広く全国的に網羅し、実体験による把握に努めた。その為には、現地での踏査による私自身の視点での情報収集はもとより、予備的な情報収集（文献及びインターネット）等による既知のものを現地にて視認し、情報化の過程で省略・取捨されたものを、私自身の視点による発見・収集とその考察を進めることに努めた。なを、踏査をした集落及び町並み（資料・調査地地図）のなかから考察の対象となるものを抜粋し、概要の把握に必要なデータを資料・調査地リストにまとめ本文末尾に添付した。

## 1. 資料の類型化

網羅的な集落及び町並みの把握と整理の必要から、集落を、既知の歴史地理学的な類型によって形態分類し、地形的及び歴史的・時間的継続性をもって類型化された「かたち」を持つ集落・町並みに注目し、これによる全体的な概要の把握を行った。紙面の都合により、例示についてはは資料参照、各項の詳細については既知の事ということで紙面の都合上削除した。

- 1-a 集落（山村・農村・漁村）
- 1-b 街道筋に開かれた宿場としての集落
- 1-c 門前町・寺内町としての集落
- 1-d 港町
- 1-e 産業都市
- 1-f 在郷町
- 1-g 城下町

## 2. 視点

集落及び町並みの始源の「かたち」は一様ではない。集落及び町並みの形態的な特徴を観察する過程で視点の異なる始源の「かたち」を示すものを類型別に整理し近似的な集落及び町並みを例示する。

### 2-a 「人が住む」・「人が集まって住む」ことのプリミティブなものが土地固有の流れの中で生まれ、自然に形成された集落とその家並み。

写真は富山県砺波郡平村相倉である。「相倉」の「クラ」は岩壁を意味し、集落の名称となっている相倉は「クラのある土地」を指す。集落の東を流れる庄川によって北東に深く刻まれた溪谷に面し、緩く傾斜する細長い段丘上に位置する。



写真・富山県平村相倉

人里離れた深い山間の地であることから平家の落人伝説も残されている。中世には、すでに真宗教徒による村落が作られていた。山に囲まれて山と共に生活してきた人々の生活は、オーバエと呼ばれる集落背後の急傾斜地の林（ブナ、トチ、ミズナラ）。粟・稗・桑畑などのために開墾された斜面、住居周辺の野菜・麻・楮畑などの耕作地と環境と生活が一体化した様子がうかがえる。人と物が通り過ぎていく街道に面しているわけでもなく、計画的な城下町でもない、プリミティブに人が生きること、住むことのなかで自然のまま、造り出された様々な住むことの「かたち」には環境に

対応する人々の共有の智慧がある。

### 2-b 随・唐の長安を源とする、儒教・漢字文化圏の都城思潮の影響からの「かたち」。

東洋の歴史都市の多くは、長安からの条坊制による町割を源流とする。その特徴は、街路は公により施設され、公的な街路によって都市は形づけられる。境界には塀をめぐらし、その塀の内側は私的な部分で私的な価値観が仕切る空間である、との認識がある。



図・中古京城図（部分）

図は鎌倉期に画かれた平安京の往古図である。塀（築垣）に囲まれた街区による都市の様子がうかがえる図である。周囲に塀をめぐらし、屋敷内は思い思いに使用されている様子が画かれている。公私の仕切りである塀には、その私的な部分と表（公）に向かった一族の意志と微妙なバランスの上に成立している。つまり塀は内の思いの表象であり、塀により私が覆われ、時には私が外部に露呈するのである。塀をめぐらせば敷地内はいかようにでも出来るとの思いは、やがて塀が無くなったとき（巷所化）、内の勝手が外へ露出する。

写真は金沢・長町の武家屋敷町。土塀の続く武家屋敷の町並みで、町家は一軒もない。今でいう官僚の官舎といった趣の空間である。塀の連なりの所々にある凹みがそれぞれの門の位置を示す。そこは、構えとしてさほど威厳を示すものではないが僅かに私的な表情をみせる部分でもある。内なる私が露出し塀の隅角から凹部の内側は檜板張りで他とは異なる表情を持つ。



写真・金沢長町

## 2-c 近世における京の都市化手法が都市化の「かたち」として各地に伝えられ形成された。

秀吉により進められた京都の近世都市化の手法は、他の城下町を作る際の標準となったようである。それは、条坊制の方形の街割に突抜けを通すことによる短冊状の屋敷地と町家である。格子状の町割りと短冊状の屋敷地についてはその例は世界各地にある。



写真・京町家

しかし、町家については特異である。京都が平安時代以降、国の中心にあってさまざまな時代の中で養われてきた文化的素養の蓄積とその底辺への拡大を背景に成立した町衆文化とその共同体の文化。町衆相互による自主的な『町式目』の制定。それは、個々の町家は街路に向かって平等に間口を開き、敷地利用をおこなう限りにおいて、採光、通風など自然条件も平等に享受できるということ。表構えの意匠についても厳しく相互規制をおこないながら『町並み』の表情を持つ

ことが要求された。『町並み』とは、町の並み（標準）にあわせることが本来の意味である。これを短期間に完全に移植することは非常な困難を伴うし、不可能といってもよい。移植される土地の背景にある障害は数えるに難くない。逆にその伝播した内容の再現の度合いと変容が個性となり、環境の表象に結びつく事になる。京的な事物や様式が、継承の時間的持続性とその土地の環境条件（自然的・社会的・技術的）による熟成度等の違いから、それぞれの町並みの環境デザインの達成度として現れ、そのクオリティーの段階別に、次のような様相を示す。

- ①一始源の事物・様式の部分的な解釈による。
- ②一始源の「かたち」を受け継ぎながら、総体として土地独自の雰囲気を作り出している。
- ③一始源の「かたち」を受け継ぎ独自の展開と独自の「かたち」を創っている。

以上のように、一応は段階的区別ができるが、便宜的な区別と言えなくもない。



写真・室戸市吉良川

写真の室戸市吉良川地区は舟運で上方と、陸のみちでは室戸街道を通じて高知とつながる、明治から昭和初期に主に栄えた在郷町である。事物的には上方の情報、所属する環境は土佐との二重構造の景観を創り出している。上方風の短冊状の敷地割り、事物的にはばったり床几に（あげ見世）に格子、おだれ庇を付けた丈の低い厨子造りの家並みの一方で、隣家との間に家屋の奥への通路に農家風の敷地配置の痕跡がみられ、



そこにトオリニワを家屋内部に内包し、櫛比する町並みを構成する程には高密度な土地利用を求められていなかったのがことにかがえる。クオリティーの区別によれば、①に該当する集落といえる。



写真・奈良井宿

前記クオリティーの区別によれば、木曾十一宿・奈良井野宿の町並みは、おおむね②に該当するといえる。元々、板葺石置が金属板葺や棧瓦葺となった緩い勾配の屋根・切妻・格子・平入・櫛比する家並み等の始源の「かたち」を受け継ぎながらも、おだれ庇が出桁造り、軒がせがい造りと変化を遂げている。自然・地形的な条件、山岳地帯故に豊富な木材資源に偏った建築資材、豪雪地帯、宿場・木材の供給地とそれに関わる地場産業によって支えられる経済力などの条件が合わさって熟成された雰囲気漂わせるものとなったようである。



写真・茂田井宿

同じ中山道沿いの集落であっても、山岳地帯を抜けた河岸段丘に位置し、その経済も宿場によるのではなく、

農耕地帯を背景にした経済に支えられた間の宿『茂田井の宿』は、間の宿から本宿への昇格を願いながらも叶わなかった。結果的には、全く異なる景観を示しているように、集落に宿場町の「町並み」の意識を必要とする何ものかの欠如故だったのであろうか。



写真・岐阜県高山

写真は飛騨高山の町並みである。基本的に木曾十一宿と同じ家屋の構成・構法でありながら宿場町と城下町では大きく景観イメージが異なる町並みである。安土桃山時代の大名・金森長近ゆかりの城下町で。周囲を険しい山々に囲まれた盆地で長年培われた町人文化と、農閑期には男たちは京へ上がり大工として働きながら京の寺社や宮廷建築を手がけ「飛騨の匠」として技術を磨いた彼らと、併せて、十分な経済力を持った商人・町衆の存在は、町並みを見ることによって明らかである。元々、板葺石置が金属板葺や棧瓦葺となった屋根の勾配はゆるく、軒の出は深く、庇は短く軒高が揃い。建物の表構えは均質なデザイン、所謂「町並み」の存在を感じさせ、クオリティーの区分ではおおむね③に該当するといえようか。

## 2-d 藩政時代の様々な家屋規制による、ミニマムな選択からマキシマムな「かたち」の獲得。

写真は熊本県玉名郡玉東町原倉から肥後民家村へと移築されたもので、建築は文政13年（1830年）とある。藩政時代には様々な禁令が各地に於いて実施され、それが各地の風土とともに個別性を創り出していたよう



写真・肥後民家村・旧境家住宅

である。肥後地方のくど造りの民家は構造と梁間寸法の制限等によるものと、防風上の考慮からの建築構造といわれている。この旧境家では更に、採光部に対する面積制限が、厳しい農民の生活を反映すると共に、研ぎすまされたなかでのおおらかな光を建物内へとみちびき入れる。更に、この採光部を創り出したセンスの良さなのか、構造柱に組み込まれた真壁と、構造から切り離され、やや勾配を持つ壁の組み合わせが創り出す豊かな表情とその働きに失われた原風景の行方をもとめるとともにこれを造りあげるひとの能力に感嘆せざるを得ない。

**2-e 近代に入り、封建的枠組みが解体され抑圧的なものから解放によって生じた「かたち」。**



写真・蘇陽馬見原の商家

写真は熊本蘇陽馬見原の商家である。幕府の瓦解による町並みに対する規制の解放が顕著に表れている例

である。豊かな経済力をしめす漆喰の塗籠と高さの解放、豊かな表現力である。



写真・内子町手前から大村家住宅、本芳我邸

内子の町並みは、もとは藩主公の菩提寺・高昌寺の門前町として、後には廻路道として整いはじめる。江戸時代後半から明治にかけて木蠟生産の町として繁栄、町並みは塗屋造で腰を海鼠壁とする重厚な町家が連続する。写真、手前の大村家は寛政2年（1790）に建てられた商家。向こう側の本芳我家は内子最大の木蠟業者本芳我の邸宅で、明治17年（1884）に建てられたもの。ともに浅黄色と白の漆喰塗り込めの虫籠窓、なまこ壁、袖壁、格子、格子戸と重厚な商家の表構えである。両家の経済力の差はいかんともし難いものとしてその表情に表れている。が、その決定的な違いのものは建設の時期で、藩政期と明治期の違いによる町並み規制の有無が両家の表構えの顕著な違いとなって現れている。

### 3. コンテキスト

私は、時をへて始源の「かたち」が、さまざまなルートとネットワークを経由して、特有の環境風土のマトリックスに組み込まれ、熟成され、固有の「かたち」へと段階的変化を遂げた例を多くを俯瞰してきた。そして、空間形成の過程での町並みのコンテキストを次第に見いだした思いである。たとえば、長安以来の例を見るまでもなくその空間獲得の底流に**囲い**への主張があり、囲えば当然**開く**仕掛けが存在する。又そこに



は**困うもの**と**困られるもの**の関係、あるいは、そこから派生する様々な環境としての重要な語彙の発生が見られるが、そのことについては次回の報告のテーマとして譲りたいと考えている。

#### 4. まとめ

調査した各地の伝統的な町並みは、観光地化されるまで映画のセットの如き書割と化し、本来の意味を既に無くしてしまったとの批判も多くある。現状はまさし

くその通りである。しかし、一方でそれら伝統的な町並みが持つメッセージ性としては、十分な価値を持つとの感触を得た。自然のシステムのなかに在ることを「よし」としてきたこの国固有の思考には、地球環境の疲弊に悩みながらも未だ止まることを知らない近代化の奔流をおもい止ませ、別の選択を考える何かがある。環境デザイン教育にかかわってきた一教員として、あらかじめ、自然のシステムと共に在ることを「よし」とし造り上げてきたこの国固有のシステムを、現代に翻案し再構築すべきであるとの思いを強くする。

- 1 北海道 函館市元町末広町
- 2 青森 黒石市仲町
- 3 青森 弘前市仲町
- 4 岩手 金ヶ崎町諏訪
- 5 岩手 陸前高田市今泉
- 6 秋田 角館市角館
- 7 秋田 横手市横手
- 8 秋田 増田町増田
- 9 宮城 登米町登米
- 10 宮城 村田町村田
- 11 福島 会津若松市七日町
- 12 福島 喜多方市杉山
- 13 福島 喜多方市三津谷
- 14 福島 喜多方市喜多方
- 15 福島 下郷町大内宿
- 16 千葉 佐原市佐原
- 17 茨城 水戸市水戸
- 18 茨城 土浦市土浦
- 19 茨城 結城町結城
- 20 茨城 真壁町真壁
- 21 栃木 栃木市
- 22 埼玉 川越市川越
- 23 長野 東部町海野宿
- 24 長野 望月町望月宿
- 25 長野 立科町茂田宿
- 26 長野 立科町芦田宿
- 27 長野 塩尻市塩尻宿
- 28 長野 塩尻市洗馬宿
- 29 長野 塩尻市本山宿
- 30 長野 福川村賢川宿
- 31 長野 福川村奈良井宿
- 32 長野 木祖村萩原宿

- 33 長野 日義村宮ノ越宿
- 34 長野 木曾福島町本町
- 35 長野 上松町上松宿
- 36 長野 大桑村須原宿
- 37 長野 大桑村野尻宿
- 38 長野 南木曾町葦原宿
- 39 岐阜 山口市馬籠宿
- 40 岐阜 松本市丸の内周辺
- 41 長野 長野市善光寺仲見世通り
- 42 岐阜 岩村町岩村本通り
- 43 岐阜 美濃加茂市太田宿
- 44 岐阜 美濃市美濃町
- 45 岐阜 郡上八幡市加治屋町他
- 46 岐阜 高山市三町
- 47 岐阜 飛騨市古川町
- 48 岐阜 白川村森町
- 49 新潟 上越市直江津
- 50 新潟 上越市高田本町通り
- 51 新潟 出雲崎町
- 52 新潟 村上市村上
- 53 新潟 栃木町下関
- 54 新潟 阿賀町津川
- 55 富山 平村町富沼




- 56 富山 上平村相倉
- 57 富山 砺波散居集落
- 58 富山 高岡市金屋町・山町筋
- 59 富山 越中八尾町
- 60 石川 金沢市長町・東山
- 61 福井 越前大野市
- 62 愛知 名古屋市長町
- 63 三重 三雲町市場庄
- 64 三重 関町関宿
- 65 三重 鈴鹿市白子
- 66 三重 伊勢市河橋
- 67 三重 伊賀上野

- 68 滋賀 西浅井町須賀浦
- 69 滋賀 西浅井町塩津浜
- 70 滋賀 マキノ町海津
- 71 滋賀 マキノ町在原
- 72 滋賀 木之本町北国街道筋
- 73 滋賀 長浜北国街道筋
- 74 滋賀 近江八幡市新町
- 75 奈良 今井町
- 76 京都 嵯峨島居本
- 77 京都 祇園新町
- 78 京都 上賀茂社家町
- 79 京都 西陣界隈
- 80 兵庫 丹波篠山
- 81 兵庫 出石町
- 82 兵庫 赤穂市坂越
- 83 兵庫 御津町室津
- 84 兵庫 佐用町平福
- 85 岡山 大原宿古町
- 86 岡山 津山市東新町
- 87 岡山 成羽吹屋
- 88 岡山 勝山町山本町・上町・中町
- 89 岡山 高梁市石火矢町・下町
- 90 岡山 倉敷市美観地区・本町・東山
- 91 鳥取 智頭町

- 92 鳥取 若桜町若桜
- 93 鳥取 米子市加茂川筋
- 94 鳥根 太田市大森
- 95 広島 福山市鞆町筋
- 96 広島 神辺町山陽道沿い
- 97 広島 下町石州街道沿い
- 98 広島 竹原市本町通り
- 99 鳥根 津和野町
- 100 鳥根 松江市
- 101 山口 萩市堀之内・平安古
- 102 徳島 脇町南町通り
- 103 高知 東洋町甲浦
- 104 高知 室戸市吉良川
- 105 高知 室戸市高岡
- 106 高知 安芸市土居廊中
- 107 愛媛 内子町八日市
- 108 愛媛 大洲市志保町・他
- 109 愛媛 宇和町の町
- 110 香川 琴平町
- 111 宮崎 日向市美々津
- 112 宮崎 椎葉村十根川
- 113 熊本 藤崎町
- 114 熊本 瀬水町
- 115 佐賀 有田町有田内山
- 116 佐賀 塩田宿
- 117 佐賀 鹿島市浜宿・魚津
- 118 佐賀 鹿島市世間
- 119 福岡 吉井町筑後吉井
- 120 福岡 甘木市秋月町
- 121 沖縄 那覇市金城町

資料・調査地図

資料・調査地リスト

北海道		位置 函館元町・末広町…南西側に函館山、北東側に港と、山・海に囲まれ、津軽海峡に突出した岬の角に抱かれた形をしている。	町並(町家の表構え)	度重なる大火による復興の時期に応じ、蔵造・煉瓦造り・コンクリート造り等の不燃化材の変化と共に、様々な様式(和風、洋風、和洋折衷)の館と町家が混在する。洋風の館に即建が見受けられるのも函館ならではである。	町並みの特徴	古くから天然の良港。海産物の集散地として、幕末の開港に伴う我が国初の対外貿易港として栄える。居留地が計画されたが失敗に終わり外国人館は市中に混在。明治初期の大火以降、幅員20間の基坂と二十間坂を幅整備、幅員6間や12間の街路が矩形の整然とした街区を形成。この時に造られた町割は以降基本的には変化無し。家屋は和風の他、開港以来の洋風或いは折衷様式で数多く建設され今に多くが残る。
		位置 黒石市中町…黒石市は、青森県中央部、浅瀬石川扇状地の扇頂に位置。中町地区は旧黒石市街地の中心部。	町並(町家の表構え)	屋敷規模は、間口2.8~23.6間、奥行7.8~45.5間と多様。切妻造り・入母屋造りが混じる、鉄板葺き(本来、青森ヒバを用いた石置板葺き)棟高の低い中二階建て、妻入り、真壁造り、摺り上げ戸。	町並みの特徴	中町通り(南北のびる弘前方面から青森方面へ通じる旧街道沿いに発展してきた)の「こみせ」は、江戸時代から今に残る木製アーケード通路(幅が1.6m前後、軒高は2.3m)。冬季、摺り上げ戸を街路側の柱の間(一間間隔)に入れ、積雪や吹雪から人を守り、軒を連ねていた旅籠や、商家にとってはなくてはならない装置となる。
		位置 肥前高田今泉…広田湾に注ぐ気仙川下流右岸に位置する。	町並(町家の表構え)	今泉地区の建物ほとんどが明治以降の建物。町家の特色は平入りと妻入りが混在し、その多くが奥に通じるトオリニワを持つ。構造は、上部は二階部分が半間ほど通路側に迫り出し覆う半露出のトオリニワである。	町並みの特徴	屋敷割りの特色は、間口はおおよそ三間半、奥行きは深くウナギの寝床状の短冊形で、奥行き方向に二階の建物が半間せり出しトオリニワの上部を覆っている。トオリニワに内向きの入口への通路としての役割と通風や採光の役割を持たせた。更に奥では幅が一間半ぐらいに拡大して居室の庭(露天)として使われている。

秋田県	角館		位置 角館市…秋田県のはほぼ中央、横手盆地北部に位置。	町並(町家)の表構え 武家屋敷の間口は、平均約10間。茅葺きの武家屋敷は建築用材として腐食に耐える姫小松を使用。町家は間口を2~4間に制限、多くは杉皮葺きの二階建てで道路に面して雪除けを設置。	町並みの特徴 旧武家町の広い通り(11m)沿いに、低めに押さえた黒の彫子下見板の塀が連続し、格式に応じた薬門、塀重門が敷設。塀に沿ってシダレザクラやモミをはじめさまざまな樹齢200年を超える大木が深い木立を形成。藩政期末期の屋敷割を踏襲し屋敷は茅葺きの主屋や蔵で構成。建設当初に領主に京の公家からの興入れがあり、京を意識した町造りがなされ、みちのくの小京都と称された。
宮城県	村田町村田		位置 村田…柴田郡中央に位置。中央部を松尾川が西北部から南流。南部には水田の広がる村田盆地、北部は山地、盆地東西を山地が囲む。	町並(町家)の表構え 切妻造りの平入り、棧瓦葺き・置き屋根形式の二階建ての店蔵造り。通りに面して一間程度の下屋庇、二階窓は観音開きの土扉、一階は通りに面して全面開放で千本格子引き戸、腰高な海鼠壁。	町並みの特徴 中心街の南北に通る約700mの道路の両側に古い商家が連なる。街路を挟んで短冊形の敷地割りで間口が狭(約3間)く奥行き(約60間)が深い。敷地南側に、表から奥に通じるトオリノワを設け、街路に面して店と並んで立派な門を持つのが村田の商家の典型的敷地配置。上方との取引を通じての京を意識した町造り、みちのく宮城の小京都とも称される。
福島県	喜多方市杉山		位置 喜多方・杉山地区…米沢からの旧街道筋、峠を越え会津盆地に向かって開けた谷間に位置。	町並(町家)の表構え 土蔵は深い軒の金属板葺きの切妻造り・半切妻の置屋根、白・浅黄色・黒漆喰を塗り分け、緑取られ、各部を強調した外壁。意匠を凝らし大胆に穿かれた窓と観音開きの土扉が街道に接す。	町並みの特徴 杉山は戸数19戸の小さな農村集落である。ほとんどの農家は街道沿いに屋敷地を持つ。敷地配置は街道から奥の位置に主屋などの主要な建物、街道との間にはニワを配している。敷地の北側の位置に土蔵が配られ妻側が街道に面し、一際目立つ特色のある開口部と大胆な置き屋根の形状が街道を際立てる。
福島県	下郷町大内宿		位置 下郷町大内宿…会津若松の南方の山岳地帯にあり、会津若松から日光街道の今市宿に至る南山通りの宿場町。	町並(町家)の表構え 茅葺き寄棟造り妻入り平屋建てのせがれ造り。宿場時代、街道に面した妻側に2室の座敷を並べ内縁を設けた客室として使用。内縁には積雪時に開けずに採光する和紙貼りの上すかし戸。今は土産物を並べるミセとして使用。	町並みの特徴 山間部の半農半宿の集落である。街道(南北に約400m)を挟んでおよそ40~50坪の茅葺き寄棟造りの主屋妻側を街道に向けて45戸家屋が規則正しく並ぶ。家屋の南側は奥の土間入口への通路と作業空間を兼ねたニワである。かつて中央にあった水路は、今もなお街道両側を豊かな水量で流れ生活用水として使われている。
千葉県	佐原市佐原		位置 佐原市佐原…佐原市は千葉県の北東部、霞ヶ浦に注ぐ桜川下流域に位置。	町並(町家)の表構え 木造真壁造り、蔵造り・塗籠、切妻・寄棟造り、平入り・妻入り、平屋建て・二階建てなど多様な様式の町家。黒漆喰・出桁造りで二階建て、二階の土扉等の明治初期建築の江戸風の特徴を持つ土蔵造りの建物も見られる。	町並みの特徴 利根川支流・小野川とそれに交差する佐原街道沿いの町家と土蔵の町並みの商業空間と、柳並木や荷揚げ場の「たし」等が創り出す河港空間の二つの異なる景観を持つ町並みである。水路で江戸と直結していることから、江戸の影響を大いに受け「北総の小江戸」とも呼ばれる。
埼玉県	川越市川越		位置 川越市川越…埼玉県の中央部よりやや南部、武蔵野台地の東北端に位置。荒川の支流新河岸川を通じて江戸と直結。	町並(町家)の表構え 天正年間頃から切妻平入り(角地には入母屋や寄棟)。明治26年の大火以後に建てられた江戸風の蔵造り(屋根は棧瓦葺き、箱棟或いは雙斗積みと影盛・二階の土扉。二階部分の異様に高いプロポーション)の町家群が特徴的。	町並みの特徴 寛永年間の町割で道路を格子状に配した形態を基本的に継承する。大きな変更も加えられず鍵の手・T字型・袋小路等城下町の特色を今に残す。保存地区は仲町交差点付近から札の辻交差点にいたる一番番商店街のあたりで、近世初期以来の町人地の核要素。明治26年の大火後に建築された外壁を黒漆喰塗とした蔵造りの商家が軒を連ねた小江戸かわこえと称される特色ある景観をみせる。
長野県	東部町海野宿		位置 東部町海野宿…湯ノ丸山南麓の扇状地、街道の南西を千曲川が並流。	町並(町家)の表構え 江戸期の建物は、棧瓦葺き(元石置板葺き)、切妻造り・平入り、棟高の低い中二階建て、出桁造り、二階に海野格子(長短2本ずつ交互に組込む)。明治以降は棟高く、越屋根、板壁卯建や塗籠の袖卯建の建物。	町並みの特徴 町並は千曲川右岸の段丘上にあり東枳形から西枳形まで5町25間(約590m)の長さに、江戸期の旅籠屋造り・茅葺き屋根の建物等と、明治以降の妻室造りの建物が調和した伝統的な家並みが連なる。江戸の出桁造りの建物、防火目的の本卯建、明治の装飾を兼ねた袖卯建、道(幅員約10m)の中央を流れる用水路には水路に降りる石段が随所にあり、並木のヤナギと共に街路を際立てる。
長野県	南木曾町妻籠宿		位置 妻籠宿…急峻な地形に囲まれ、木曾川支流蘭川(あらかきわ)によって形成された小盆地に位置。標高420m前後に立地。川沿に南北に長い。	町並(町家)の表構え 元は板葺き石置き屋根を鉄板葺きに改造軒の幕板・破風板にその痕跡を見せる。切妻造り、平入り真壁・中二階建て。表構えは、一・二階の出桁造りによる深い軒、二階両袖壁は塗壁。	町並みの特徴 昭和51年9月に妻籠宿が、文化財保護法による日本で最初の「重要伝統的建造物群保護地区」に選定。木曾路には宿駅制度によって11宿あったが妻籠は一番小さな宿場であった。宿場は南北に貫く中山道に沿って、北から窓野・下町・中町・上町があり、枳形を挟んで寺下・尾俣の町並みが続いている。豪商の家屋に真壁造りの白漆喰塗仕様の本卯建が上がり街道筋を際立たせる。
岐阜県	美濃市美濃町		位置 美濃市美濃町…長良川中流とその支流板取川・片知川などに沿った地域。	町並(町家)の表構え 切妻造り本卯建、平入り、中二階、漆喰塗籠虫籠窓、棧瓦葺き、格子・煙出し、オダレ(下屋の出桁の下に架け渡される幕をかけるための材)パツダリ。	町並みの特徴 金森長近は一生に3つの町を作った。越前大野・飛騨高山、最後のが上有利(美濃)。いずれの町も高い山頂に構えた城を低い山へと移し、城を中心に城下町を造り、戦いよりも経済を中心とした。美濃和紙の製造・販売による繁栄、「卯建」に象徴された江戸から明治・大正及び昭和初期に建築された伝統的な塗籠造りの民家が軒を連ねる町並みを形成。



新潟県	出雲崎町		位置 出雲崎…中越地方の北部に位置する。北西部は日本海に接し海岸線はなだらか。	町並(町家)の表構え 元は板葺き石置き屋根を鉄板葺き或いは瓦葺きに改造、軒の幕板・破風板にその痕跡を見せる。切妻造りで下見板張り。元は街道に面して雁木が設けられて通路として解放されていたようであるが、今ではその姿を確認できない。	町並みの特徴 出雲崎町は幕府天領の地で代官所が置かれていた。旧北陸道に沿ったおよそ4kmの町並みで、片側は海沿いに沿い、片側は山に遮られ街道沿いに一筋町を形成している。宿場の両端に今も辨型が残る。町並みを構成している家屋は、ほとんどが切妻・妻入りで間口2〜3間前後と狭く、奥行きは深く中は70mもある家がある。街道の所々に海岸に抜ける小路があり、海岸沿いには船小屋が設けられている。
		歴史的形態 宿場町…古くは北国街道の宿駅、江戸期においては佐渡渡海の津、公の渡船は必ず当地より出帆、佐渡金銀の揚陸港、北前船の寄港地、北国街道の宿場町として発展。	町並(町家)の表構え 街道沿い約1kmトンプの町並が続く。鉄板葺き、2階建て、真壁造り、上町には切妻造り・平入り、仲町には切妻造り・妻入りが多く見られる。私有地を公共のものとして使ったトンプは雪の多いこの地方の生活道路。	町並みの特徴 慶長15年大火があり、町中残らず消失。津川城主岡重正はこの機会に整備を行った。本町内173軒はすべて板屋根とし商売を許し、端町は板屋根・商売ともに許可しなかった。平板造りという庇をつけた。これが雪国の雁木(津川ではトンプ)だが、会津地方では津川以外つげられていない。	
新潟県	阿賀町津川		位置 津川…下越地方の南東部、阿賀野川が津川盆地西部を流れ、中央部を北流する常浪川と阿賀野川が合流する河岸段丘に位置。	町並(町家)の表構え 元は石置き板葺き、棧瓦葺き・鉄板葺きに改造、切妻造り、平入り形式の二階建て、出桁造り。	町並みの特徴 井田川と別荘川に挟まれ細く長く広がる坂の町・八尾。井田川沿いへ跳めると屋のような斜面に石垣が積まれ、その間を縫うように丘の上に向かっていくつもの石段と坂の小道がづらづらに続く。
		歴史的形態 宿場町・河湊…会津街道と阿賀野川の水運を結ぶ水陸の中継地・津川船道の起点として繁栄。六歳市が立ち、米と新潟産からの塩・衣類などの交換で賑わった。	町並(町家)の表構え 元は石置き板葺き、棧瓦葺き・鉄板葺きに改造、切妻造り、平入り形式の二階建て、出桁造り。	町並みの特徴 井田川と別荘川に挟まれ細く長く広がる坂の町・八尾。井田川沿いへ跳めると屋のような斜面に石垣が積まれ、その間を縫うように丘の上に向かっていくつもの石段と坂の小道がづらづらに続く。	
富山県	八尾町		位置 八尾町…神通川の支流、井田川が平地に流出する山麓に位置する。北に越中平野の村々を望む。	町並(町家)の表構え 天明4年(1784)の大火で宿のほとんどが焼失。従来の茅葺から防火を考慮した町並みへと再建。白或いは黒塗籠造り、切妻造り、平入、中二階建て、棧瓦葺き、本町建、袖壁、虫籠窓、格子、出格子。	町並みの特徴 伝統的な地場産業を背景とした合宿で旅籠はない。町並みは、東から西に向かって緩やかな下り坂で、大きく蛇行した街道に沿って平入りの本町建塗籠造りの豪壮で重厚な商家が見え隠れしながらゆったりと続く。商家の建物は主屋・蔵・塀で構成され街道に面している。主屋の表構えの特色は、半間の土庇による軒下空間が絞りの店頭販売のために大きく開かれていたが、現在は格子戸と玄關の引き戸がつく。
		歴史的形態 門前町(聞名寺)…洪水により家や耕地を失った人々が、聞名寺のある高台に移住、寛永13年(1636)成立。	町並(町家)の表構え 天明4年(1784)の大火で宿のほとんどが焼失。従来の茅葺から防火を考慮した町並みへと再建。白或いは黒塗籠造り、切妻造り、平入、中二階建て、棧瓦葺き、本町建、袖壁、虫籠窓、格子、出格子。	町並みの特徴 伝統的な地場産業を背景とした合宿で旅籠はない。町並みは、東から西に向かって緩やかな下り坂で、大きく蛇行した街道に沿って平入りの本町建塗籠造りの豪壮で重厚な商家が見え隠れしながらゆったりと続く。商家の建物は主屋・蔵・塀で構成され街道に面している。主屋の表構えの特色は、半間の土庇による軒下空間が絞りの店頭販売のために大きく開かれていたが、現在は格子戸と玄關の引き戸がつく。	
愛知県	名古屋市有松		位置 有松…名古屋市の南東部丘陵地帯に位置。	町並(町家)の表構え 切妻造り、厨子二階建て水切り庇付き出格子、妻入り、或いは中二階建て、平入り。棧瓦葺き、一階軒庇は瓦葺き、幕板付、外壁は押縁下見板。出格子、格子戸。	町並みの特徴 敷地の北側の主屋を建て南側に庭を確保。間取りでの共通点は、街道に面した主屋の中央より南側に出入口を設け、その南側に「女中部屋」、その奥に「だいどころ」「かまて」などの部屋が続く。明治中期から大正初期にかけて市場庄の町家のファサードに大きな変化が起こる。ミセ全面を解放する摺り揚げ戸の必要性が無くなり出格子に変化する。
		歴史的形態 有松…慶長13年(1608)、東海道鳴海と知立の宿の間に、合宿として開かれた。紋じ染めが考案されると、藩の庇護を受け有松名産として知られ紋じと共に繁栄した。	町並(町家)の表構え 切妻造り、厨子二階建て水切り庇付き出格子、妻入り、或いは中二階建て、平入り。棧瓦葺き、一階軒庇は瓦葺き、幕板付、外壁は押縁下見板。出格子、格子戸。	町並みの特徴 敷地の北側の主屋を建て南側に庭を確保。間取りでの共通点は、街道に面した主屋の中央より南側に出入口を設け、その南側に「女中部屋」、その奥に「だいどころ」「かまて」などの部屋が続く。明治中期から大正初期にかけて市場庄の町家のファサードに大きな変化が起こる。ミセ全面を解放する摺り揚げ戸の必要性が無くなり出格子に変化する。	
三重県	三雲町市場庄		位置 三雲町市場庄…三重県の中央部の海沿い、三波川の右岸低地域に位置する。	町並(町家)の表構え 切妻、妻入り。平入りの混在。浜と居住地区の境に波除石垣。各住戸の屋敷廻りにも浜側に石垣の囲いをめぐらし水害に備えている。	町並みの特徴 中世の頃から自治の村落共同体「惣」を組織。四足門の内側に余所者は住めず、里の者でも道理に反する行為があれば門外へ追放するなどを、惣の掟によって厳しく裁かれた。
		歴史的形態 宿場町(伊勢街道)…蒲生氏郷、天正16年(1588)、道筋を整備、道沿いに新しく集落を形成。	町並(町家)の表構え 切妻、妻入り。平入りの混在。浜と居住地区の境に波除石垣。各住戸の屋敷廻りにも浜側に石垣の囲いをめぐらし水害に備えている。	町並みの特徴 中世の頃から自治の村落共同体「惣」を組織。四足門の内側に余所者は住めず、里の者でも道理に反する行為があれば門外へ追放するなどを、惣の掟によって厳しく裁かれた。	
滋賀県	西浅井町菅浦		位置 西浅井町・菅浦…琵琶湖北部葛籠尾半島先端に出来た小湾の湾奥にあり背後は急な山腹傾斜面がある。	町並(町家)の表構え 茅葺きの農家風建物と、棧瓦葺き、切妻造り、平入り、中二階建て又は二階建て、格子、出格子、ばったり床几、虫籠窓の京風町家が混在。茅葺き屋根と棧が葺き屋根の合体した曲がり中門造りの建物が家並みを際立てる。	町並みの特徴 愛宕街道に沿った長さ約600メートルの家並み、17世紀中頃から農林業と漁業を主体とした集落。その後、愛宕神社の門前集落としての性格も加わり、江戸時代末期から街道沿いに、農家、町家、茶店が建ち並ぶ。街道の中ほど化野念佛寺を境にして愛宕神社側の地区は主に茅葺きの農家風、下の地区は京風町家が共存、歴史的な景観を創出している。
		歴史的形態 漁村集落(琵琶湖)…天皇に食料を献上する贄人が、この浦に住み漁業を営んだのは、平安時代以前とされる。	町並(町家)の表構え 茅葺きの農家風建物と、棧瓦葺き、切妻造り、平入り、中二階建て又は二階建て、格子、出格子、ばったり床几、虫籠窓の京風町家が混在。茅葺き屋根と棧が葺き屋根の合体した曲がり中門造りの建物が家並みを際立てる。	町並みの特徴 愛宕街道に沿った長さ約600メートルの家並み、17世紀中頃から農林業と漁業を主体とした集落。その後、愛宕神社の門前集落としての性格も加わり、江戸時代末期から街道沿いに、農家、町家、茶店が建ち並ぶ。街道の中ほど化野念佛寺を境にして愛宕神社側の地区は主に茅葺きの農家風、下の地区は京風町家が共存、歴史的な景観を創出している。	
京都府	嵯峨鳥居本		位置 嵯峨鳥居本…京都嵯峨野の北西部、愛宕山の麓に位置する。	町並(町家)の表構え 大筋町の商家は、切妻造り平入り或いは入母屋造りの妻入りの中二階建て、本瓦葺き、漆喰の虫籠窓、千本格子、潜戸付き大戸。海側の家屋は、道路より1m程度石垣積みの屋敷地を造成し高波に備え堅板張りの塀で囲う。	町並みの特徴 西廻り航路の開設(寛文年間(1661~72)とともに、坂越浦と呼ばれ賑わい瀬戸内海有数の廻船業地となるが、大型の北前船の台頭により、北国産物輸送の主導権を奪われる。一方で、千種川地域の米や産物や、赤穂塩を買いつけての廻漕する塩廻船へと転換して多くの利益をあげていった。江戸時代の町並は港寄りの鳥居坂沿道(大道)と、坂越港周辺に旧態を留め、いかにも港町らしい佇まいをみせている。
		歴史的形態 門前町(愛宕神社)…嵯峨釈迦堂から愛宕山山頂への愛宕神社に至る参詣道沿い、一之鳥居門前に町並みが形成され街道沿いに茶店等が建ち並ぶ。	町並(町家)の表構え 大筋町の商家は、切妻造り平入り或いは入母屋造りの妻入りの中二階建て、本瓦葺き、漆喰の虫籠窓、千本格子、潜戸付き大戸。海側の家屋は、道路より1m程度石垣積みの屋敷地を造成し高波に備え堅板張りの塀で囲う。	町並みの特徴 西廻り航路の開設(寛文年間(1661~72)とともに、坂越浦と呼ばれ賑わい瀬戸内海有数の廻船業地となるが、大型の北前船の台頭により、北国産物輸送の主導権を奪われる。一方で、千種川地域の米や産物や、赤穂塩を買いつけての廻漕する塩廻船へと転換して多くの利益をあげていった。江戸時代の町並は港寄りの鳥居坂沿道(大道)と、坂越港周辺に旧態を留め、いかにも港町らしい佇まいをみせている。	
兵庫県	赤穂市坂越		位置 赤穂市坂越…千種川河口近く三方を山で囲まれた坂越浦に面する。湾内の生島が風波を防ぐ天然の良港である。	町並(町家)の表構え 塀で半開きの敷地に、切妻或いは入母屋造り、石州瓦或いは黒瓦葺き・平入りの中二階建て。各戸白漆喰で異なる形状と納まりを持つ虫籠窓と火返し(袖壁)、煙だし、海鼠壁、式台つきの玄關と千本格子。妻入り土蔵。	町並みの特徴 古町宿の町並は重厚な造りの半農半宿の家屋が目立つ。大都市型の平入りの家屋が稀化する町並とは異なり、間口も広く中庭、前庭を持つ屋敷型(農家型)の家並みが続く。山陰に多い石州瓦の家もあり、地理的にも山陽と山陰の文化の交点に位置する。
		歴史的形態 港町…坂越浦を取り囲むすり鉢状の漁村集落と、集落中央部を貫き千種川と坂越浦を結ぶ坂越大道の両側にかつての大庄屋や回船問屋の家並みが続く。	町並(町家)の表構え 塀で半開きの敷地に、切妻或いは入母屋造り、石州瓦或いは黒瓦葺き・平入りの中二階建て。各戸白漆喰で異なる形状と納まりを持つ虫籠窓と火返し(袖壁)、煙だし、海鼠壁、式台つきの玄關と千本格子。妻入り土蔵。	町並みの特徴 古町宿の町並は重厚な造りの半農半宿の家屋が目立つ。大都市型の平入りの家屋が稀化する町並とは異なり、間口も広く中庭、前庭を持つ屋敷型(農家型)の家並みが続く。山陰に多い石州瓦の家もあり、地理的にも山陽と山陰の文化の交点に位置する。	
岡山県	大原町古町		位置 大原町…大原町は岡山県の北東部、鳥取県・兵庫県との境に近い山深いところである。	町並(町家)の表構え 塀で半開きの敷地に、切妻或いは入母屋造り、石州瓦或いは黒瓦葺き・平入りの中二階建て。各戸白漆喰で異なる形状と納まりを持つ虫籠窓と火返し(袖壁)、煙だし、海鼠壁、式台つきの玄關と千本格子。妻入り土蔵。	町並みの特徴 古町宿の町並は重厚な造りの半農半宿の家屋が目立つ。大都市型の平入りの家屋が稀化する町並とは異なり、間口も広く中庭、前庭を持つ屋敷型(農家型)の家並みが続く。山陰に多い石州瓦の家もあり、地理的にも山陽と山陰の文化の交点に位置する。
		歴史的形態 宿場町(因幡街道)…宿内の因幡街道は幅も広く見通しがよい。	町並(町家)の表構え 塀で半開きの敷地に、切妻或いは入母屋造り、石州瓦或いは黒瓦葺き・平入りの中二階建て。各戸白漆喰で異なる形状と納まりを持つ虫籠窓と火返し(袖壁)、煙だし、海鼠壁、式台つきの玄關と千本格子。妻入り土蔵。	町並みの特徴 古町宿の町並は重厚な造りの半農半宿の家屋が目立つ。大都市型の平入りの家屋が稀化する町並とは異なり、間口も広く中庭、前庭を持つ屋敷型(農家型)の家並みが続く。山陰に多い石州瓦の家もあり、地理的にも山陽と山陰の文化の交点に位置する。	



岡山県	成羽町吹屋		位置 成羽町吹屋…成羽の町から成羽川の支流を北に約9km離れた吉備高原の町(標高約500m)。	町並み(町家の表構え)	町並みは、古い形式の家屋は切妻造りに下屋を付けた妻入り、中二階建て。新しいものは、入母屋造り・妻入りが主で平入りは僅か、二階建て。屋根は石州棧瓦葺き。白漆喰壁と弁柄入りの土壁が混在、海風壁、ペンガラ格子。	町並みの特徴	町並みは、全国唯一の特産品である弁柄製造によって繁栄し多くの富豪を輩出、これら富豪たちによって江戸後期から明治・大正にかけて形成された。町並みの中心は穏やかなカーブをえがきながら屋根筋を上りつめた中町で、その充実は際立って見事である。典型的な町家の形式は妻入りの入母屋、古い形式に於いても下屋を付けた切妻が正面に接し、白漆喰の破風が連続して並び高原の空を背景に際立っている。
鳥根県	太田市大森		位置 太田市大森…大森の町は鳥根県の中心部太田市の南西15kmの山間部にあり、北東から南西に走る二つの尾根筋に挟まれた細長い谷あい銀山川の河岸段丘に沿う。	町並み(町家の表構え)	町家は石州棧瓦葺き、平屋・中二階及び二階建てが混在、切妻造り平入りが主。一階は本造真壁が多くおだれ庇を境に土壁の塗籠造り、木製雨戸。庇の出は半間程度で縁側状に床几が付属。武家は瓦葺き土塀で町筋と接する。	町並みの特徴	町並みは、連続する高さを抑えたおだれ庇と低めの床几が、銀山川に沿うように穏やかなカーブを描き、緩やかな坂道の印象をより深くし、背景に迫る山並みと一体となった景観を造り出している。武家の住まいと町家が混在し身分の違いによる棲み分けはないよう銀山川を背景に築いた歴史をよく反映している。武家屋敷は道に面して門・塀・庭を配した後ろに控えて主屋が建つ。
広島県	竹原市竹原		位置 竹原市竹原…瀬戸内を行き来する舟が停泊した港は、本川の河口。	町並み(町家の表構え)	切妻造りと入母屋造り・平入りと妻入りが混在。角地には入母屋造の建物。棧瓦葺き、中二階建て・虫籠窓、二階部分は白或いは黒漆喰の塗籠。一階は真壁、揚げ戸、千本格子の建込み戸。ミセノマには竹原格子。	町並みの特徴	竹原の町並みは、本川と丘陵地の間の本町通り(幅員5~6m・延長約400m)を中心として、広さ約5haの範囲で北より上町・中町・下町と続く。構成は、緩やかにカーブした本町通りと西側の中小路、2つの通りを狭く板屋小路、大小路の範囲である。中心となる本通りの北端は恵美須神社、南端は町家に突き当たって直角に折れ曲がる。安芸の小京都として知られる。
山口県	萩市堀之内		位置 萩市堀之内(旧萩城三の丸地域)…萩の北部に位置し、阿武川の下流に形成された三角州に位置する。	町並み(町家の表構え)	かつての大身武士の屋敷地街。写真は追廻し筋の鍵曲り。土壁の腰壁部の石垣は高さ約1mで整然と、その上部は乱石積、生垣など様々な仕様。この長い土塀と背後は今は夏ミカン畑が広がる。	町並みの特徴	江戸期重臣の屋敷地区。屋敷の周囲は長屋門、長屋の他に白漆喰の土塀。明治以後、重臣は藩主と共に萩を去り、建物も解体。基盤目に区画された当時の町割り、道を鍵の手に曲げた鍵曲り等特徴的な街路が残る。
徳島県	脇町南町		位置 脇町南町…徳島県西部に位置し吉野川の中流城北岸に位置する。	町並み(町家の表構え)	伝統的町屋50戸の内22戸が、間口四間半以上。敷地奥行き深く、80m以上を超えるものもある。切妻・入母屋造り、平入・妻入と混在。本瓦葺き、中二階建て、塗籠虫籠窓、格子、出格子。袖卯建は本瓦寄棟・鬼瓦の重厚な姿。	町並みの特徴	近世に発達した吉野川中流域の在郷町として、江戸時代中期以来の町家造構が多い独特の重厚な意匠の町並みを残し、特色ある歴史的環境を形成。町並みの中心は南町で東西の通り430mに短冊形地割り、切妻造・平入、街道に向かって鬼瓦を乗せた重厚な構えの袖卯建の町家が連なる。
愛媛県	内子市八日市		位置 内子市八日市護国…四国山地から西流した小田川と中山川及びその支流麓川が町域の内山盆地で合流。	町並み(町家の表構え)	棧瓦葺き、中二階及び二階建て、入母屋造り・切妻造りが混在、平入りが主。浅黄色或いは白漆喰の塗籠造、虫籠窓に白漆喰の緑取りと海風仕上の袖壁。彫物付格子、鏝絵の妻飾りや袖壁。部戸、バツリが今に残る。	町並みの特徴	緩い傾斜の街道に沿って展開している内子の町並は、地元産の石(緑がかった泥板岩)の石垣と水路によって隣地と区画されている。この隣家との空間は、処によっては水路を伴う路地空間とを造り出す。表街道の浅黄色と白漆喰の塗籠造の重厚な外壁の連なりの切れ目からこの路地を通して見える周辺の山々の緑は、他所とは異なる町並み景観を与えている。
高知県	室戸市吉良川		位置 室戸市吉良川…高知県東部に位置する吉良川町は、江戸時代に高知から室戸に至る浜街道沿いに形成。寛政6年(1794)には整う。	町並み(町家の表構え)	切妻造り・平入り、中二階建て、棧瓦葺き、漆喰塗籠虫籠窓。外壁は下見貼り、水切り瓦、海風壁の区別。商家には玄関脇に閉じれば雨戸、開ければ広縁になる上下開き板「ぶっちょう」がつく。	町並みの特徴	集落は、海岸に近い下町地区、山側の微高地の上町地区よりなる。下町は、東西に幅員2~3間の旧土佐街道に沿って両側に短冊型敷地(間口4~5間)の両側町。隣家との間に屋根のない3尺~1間程度のトオリニワがつく。上町地区は細い街路と屋敷の周囲に「いしぐろ」と呼ばれる石垣帯を巡らした農家型の地割りで方形である。
宮崎県	日向市美々津		位置 日向市美々津…耳川の河口に位置	町並み(町家の表構え)	妻入り、平入りの混在。土蔵造り、虫籠窓、格子窓、一階に出格子、腰格子、パノコ(床几)、二階に海風壁と漆喰の戸袋。正面庇の前面両端に漆喰塗の戸袋。建物の表構えは、時代や町内での性格を反映して多少異なる。	町並みの特徴	奥日向山地の産物である木材や炭、薪は高瀬舟で耳川を下り瀬戸内海舟運の西端に位置する耳川河口の美々津を経由して、主に上方方面へと運ばれた。その影響からか上方風の商家が目立つ。地区は上(番所や藩蔵、役人の屋敷、高礼場)・中(廻船業者の商家)・下町(船員や舟大工)に分かれる3本の主道路やツクヌケと呼ばれる防火路など昔の区割りが残り、幕末から明治、大正、昭和期の町家が混在。
宮崎県	椎葉村十根川		位置 椎葉十根川集落…耳川支流の十根川の中流左岸に位置する。	町並み(町家の表構え)	元は茅葺きから時代に從って、ソギ板(栗割り板)葺き、トタン葺き、瓦葺きへと変化。	町並みの特徴	急峻な傾斜地に、石垣で築成された屋敷地と棚田状の農地で構成された独特な景観を形成。各戸は、屋敷地や農地の石垣に沿って、細い通路で結ばれ、通路の一部は石段。屋敷地には「一列平面の椎葉型」と呼ばれる民家で集落を構成。

佐賀県		位置	有田町有田内山…北部は黒髪山、東南部に神六山がそびえ、地内を有田川とその支流白川が流れる。	町並(町家)の表構え	江戸期の草葺き中二階建てから、明治期の瓦葺き白漆喰塗り本2階建、大正期の高い黒漆喰塗り、昭和初期の洋風要素の混在へ。屋根は入母屋造り妻入りが基本、古いものは切妻造り妻入りも、新では入母屋造り平入りと多様な形式。	町並みの特徴	内山は、磁器の生産と販売及び関連業種とそとの関連町民の住居より成る。販売を主とする商家が表通りに、窯元は裏通りで扉に開かれた屋敷地に分布。町並みを構成する家屋は文政の大火以来、江戸期から昭和初期まで各時期に建てられ、伝統的な町並みではなく、その経済力を背景に時代を反映し個性的で変化に富む表情を見せる。裏通りや町並の裏を流れる白川川・中樽川沿いでは、表通と異なる表情を見せる。
		歴史的形態	製磁町…文政の大火により殆どを焼失。天保年間に盛況を取り戻し、町並みを形成今も有田焼の中心地。				
佐賀県		位置	鹿島市・浜津地区…浜宿に隣接する浜川河口に位置し有明海に通じる漁港。北は有明海に面する。	町並(町家)の表構え	魚津地区は平屋及び中二階建てが多く、街道筋は中二階及び二階建てが多くみられる。屋根の形式は入母屋造り及び寄棟造り、平入り、葺葺り、下屋部分は瓦葺き。	町並みの特徴	浜川を挟んで北舟津、南舟津と呼ばれ、漁民の家は川に面して形成していたが、河港に面した町並みは河川改修のために大幅に解体され川面に面した景観は失われた。船津の集落は千拓等によりかなり内陸に追いやられているが、浜川の南岸にある地区には、茅葺き、藁葺きの民家が今も僅かに残っている。
		歴史的形態	漁村集落…長崎往還に面した両側町の庄津・金屋地区と、河口対応した魚津の漁村地区とに分かれる。				
福岡県		位置	甘木市下秋月・秋月…筑後川支流小石原川中流右岸の盆地、古処山の南西麓に位置する。	町並(町家)の表構え	町家は、間口3間半～4間半で奥行き深く、表通りに接し主屋を建設。入母屋造り又は切妻造り焼瓦葺き(元は藁葺き)で妻入り中二階建て、一階は白漆喰真壁造り、格子戸建込、堅羽目板張腰壁。二階は虫籠窓、白漆喰塗籠造り。	町並みの特徴	中世秋月氏、近世秋月黒田藩五万石の城下町として発展。明治以降は廃藩によって政治的・経済的な機能・活力を失う。結果、小盆地の中に城下町時代の町割・屋敷割・道路網・水路網などの基本的な構造、城館跡、武家屋敷、町家などの構成要素が温存され、歴史的な建物、小路、石積、土塀、生垣などが、城下町の佇まいを演出する。
		歴史的形態	城下町(秋月城)…黒田長興、寛永元年(1624)の縄張りが城下町の原型。古処山から流れ出る野鳥川を挟んで南側陣屋と主要な武家地、北側に町地と武家地を配した。				
福岡県		位置	吉井町・筑後吉井…耳納山地北麓から筑後川左岸にかけて位置し、中央を巨瀬川が流れる。	町並(町家)の表構え	写真左端、豪商西岡家の屋根組は基は切妻造りであるか出入りが複雑。隣家、中央の杉光家も、屋根は入母屋造り妻入りの土蔵造り。街道筋の入母屋造り妻入りの町家は、妻側の屋根を葺下ろし間口の広い平入風に似せている。	町並みの特徴	豊後街道沿いに漆喰塗の重厚な町屋が連続する町並みと災除川と南新川沿いに広がる屋敷群からなる。明治2年の大火を契機として、草葺きの町屋にかわって瓦葺塗屋造りが普及し始め。大正期に入って豊後街道拡幅を契機に「居蔵屋」が建ち並ぶ重厚な景観が完成。
		歴史的形態	在郷町…商品作物の集散・加工を営む在郷町として、明治期には「居蔵屋」が立ち並ぶ豊かな商業都市として発展、最盛期の大正期にほぼ現在みる町並みを形成。				
沖縄県		位置	那覇市金城…沖縄本島首里城南の台地斜面に広がる地域、安里川に臨む。地名は城の美称辞。城下の村を意味する。	町並(町家)の表構え	沖縄戦の猛砲撃から奇跡的に破壊を免れた焼け跡には、琉球石灰岩の表面に滑らないように刻みを付けた石畳の坂道と、程良い高さに積まれた切石の屋敷間口の石垣が残された。再建された赤瓦の家並みが昔の面影を伝えている。	町並みの特徴	首里の城下町は、道の形がいわゆる碁盤の目に近く、ほぼ均質な規模の方形の屋敷が並ぶ井然型で、近世日本の城下町にある町家の町割は無い。金城の町並みは、首里城(標高120m)の丘の急峻な南斜面に沿って一気に下がる石畳の坂道と、坂道に沿って分割された方形の土族の屋敷地からなる。坂道の途中には、屋敷地の角に魔除けの石敢當や金城大樋川という石垣で整備された共同の水場がある。
		歴史的形態	城下町(首里城)…尚真王の時代(1477～1526)に首里城から南部への主要道路として整備。				

## 【主な参考文献・資料】

『角川日本地名大辞典』角川書店、『日本民家語彙解説辞典』日本建築学会民家語彙集録部会編纂・紀伊国屋書店、『写真で見る民家大辞典』日本民族学会編・柏書房、『民家と町なみ』稲垣栄三責任編集・世界文化社、『別冊太陽・日本の町並み1(近畿・東海・北陸)』三沢博昭・小野吉彦監修・平凡社、『別冊太陽・日本の町並み2(中国・四国・九州・沖縄)』三沢博昭・西川幸夫監修・平凡社、『別冊太陽・日本の町並み3(関東・甲信越・東北・北海道)』三沢博昭・西川幸夫監修・平凡社、『別冊太陽・京都 古地図散歩』構成・伊東宗裕・平凡社、植川村教育委員会編、『植川文化財散歩』植川村教育委員会編、『続探訪・奈良井宿、『中国地方のまち並み』日本建築学会中国支部・中国地方まち並み研究会編著・中国新聞、『土佐の民家』高知新聞社編集局学芸部編・高知新聞社、『中山道69次を歩く』岸本豊著・信濃毎日新聞社、『竹原市伝統的建造物群調査報告書』竹原市、『肥前浜宿・鹿島市浜宿伝統的建造物群保存対策調査報告書』鹿島市教育委員会、『愛媛県内子町伝統的建造物群調査報告書』内子町八日市周辺町並保存対策協議会編、『町家点描』藤島亥治郎・藤島幸彦・学芸出版、『町家歴訪』藤島亥治郎・他著・学芸出版、『風土の意匠』・浅野平八著・学芸出版社、『大名の日本地図』中嶋繁雄著・文芸春秋、『妻籠宿』小寺武久著・中央公論美術出版社、『京都・建築と町並みの遺伝子』山本良介著・建築資料研究社、『京町家・千年の歩み』高橋康夫著・学芸出版社、『蔵』高井潔著・淡交社、『佐原の歴史散歩』島田七夫著・たけしま出版、『瀬戸内の町並み』谷沢明著・未来社、『日本の町なみデザイン』益田史男著・グラフィック社、『建築家秀吉』宮元健次著・人文書院、『日本町の風景学』内藤昌著・草思社、『日本の都市空間における環境デザインの現状とその比較研究』吉原卓男・塚本学院教育研究補助費、『環境デザインの地域的特性を造形との関連性において考察する』吉原卓男・塚本学院教育研究補助費、他